

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590101101		
法人名	株式会社サンガジャパン		
事業所名	グループホームやばせ翔裕館		
所在地	秋田県秋田市八橋本町三丁目14番18号		
自己評価作成日	令和5年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/05/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0590101101-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和5年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人が推奨している認知症ケアプログラムの実施に力を入れている。このプログラムを実施により不安を取り除き、入居者にいかに伝わるか、また不安の軽減がなされるかを目標とし実践している。また当法人が掲げている感動介護憲章(5項)を軸に地域のコミュニティーの一員として、地域貢献出来るよう考えている。「家族主義」「共に生きる」をキーワードに介護の実践を行っている。さらに、看護師を配置しインシュリン投与の必要な方の対応も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が推奨している認知症ケアプログラムの実施に力を入れている。このプログラムを実施により不安を取り除き、入居者にいかに伝わるか、また不安の軽減がなされるかを目標とし実践している。職員は、「共に生きる」の理念の実践に向け、共有し、常に利用者に寄り添う姿勢がみられた。看護職員4名の配置の他、内科往診・歯科往診・薬剤師の訪問があり、安定した生活が継続できる様健康管理の体制が充実している。現在は、面会もできるようになり、ご家族が入居者と一緒におやつを食べる等の交流ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目のはいる場所に法人理念を掲げている。事業者理念「みんなでつくる、ひとりひとりが輝きを放つ元気施設！」は口頭にて説明、また目標シートに記載している。	事務室内に法人理念を掲げている。事業者理念「みんなでつくる、ひとりひとりが輝きを放つ元気施設！」を管理者より職員へ説明し共有している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今期は夏祭りに参加している。実施場所は地域の小学校であった。その際に、相談に応じますとの内容の旗を掲げ、相談場所も設けた。日常的な交流は実施出来ていない。	日常的な地域との交流は実施されていないが、地域で行われる夏祭りに利用者と参加し、夏祭り会場に相談ブースを設けて地域住民の相談を受ける取り組みをした。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	11月に認知症サポート研修の講師として研修を行っている。また地域小学校の子供避難場所の指定を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域支援包括支援センターの方の意見を取り入れる。実践可能な要望はいち早く取り掛かり、実現できるよう努めている。	地域包括支援センターご家族などと運営推進会議が開催できるようになり、意見や要望を取り入れて実現できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	それぞれの担当者と電話や対面にて相談等行っている。市の職員の方が当施設に来られたことは無かった。	行政の生活保護課、介護保険課などと相談を常に行っている	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に身体拘束及び虐待の研修を行っている。身体拘束に関して、玄関の施錠は当施設の建物上オートロック方式になっているが、身体拘束の観点から、外出の医師がある際は職員と共に散歩等行っている。	全職員に身体拘束及び虐待の研修を行っている。施設の入り口がオートロック式のため玄関が常に施錠された状態であるが利用者の希望がある場合は職員とともに散歩をしている。家族には、拘束をしない事によって発生するリスクについて「利用時リスク説明書」で説明し同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている入居者がおり、連絡は取っている。全職員が左記のことを理解できている状態ではなく、学ぶ機会を特段設けていない。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行っている。また、疑問点があるかどうかをその場で聞いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族の要望を聞くよう意見箱を玄関に設置している。また、運営推進委員会の際に入居者様ご家族に意見を聞いて、実現可能な要望は実施に向けて動いている。	ユニットの入り口に、意見箱が設置され、利用者や家族が意見を述べられる機会がある。運営推進委員会に常に家族の出席があり、ご家族の意見を聴いている	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	ユニット会議・全体会議を設け意見を募っている。また、随時意見があるかを口頭等で聞いている。実現可能な事柄は実践に向けて準備、実行している。	ユニット会議、全体会議を毎月開催している。また、全体会議で、職員からの提案や意見交換をしている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	営業を通して意見交換を行っている。また、入居状況確認等の電話を受けた際にも情報等を交換している。交流という段階には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の仕事の中で利用者様の意見を聞くようにしている。上がった際はアセスメントを行い、介護計画に反映、実行のプロセスを踏んでいる。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議や電話等で意見を聞き、実行可能な事柄は検討、実施している。また、その事柄をアセスメントし介護計画に落とし込んでいる。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係(介護する人、介護される人)ではなく、共に一緒にの作業を行うことを意識し仕事にあたるよう心掛けている。(食器拭き、洗濯物たみ等)		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族などキーパーソンの方を中心に電話にて本人の状況や要望を伝え、協力を仰いでいる。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話することが可能な入居者様は自ら連絡を取っているが数名である。ほとんどの入居者様は電話や手紙のやり取りを行っていない。	携帯電話で自ら家族とメールや電話をしたりしている。コロナ時、友人との面会はズームでしていたが現在は面会を再開している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を見極め、座席の位置を決めたり、またあえて傍にお連れしたりして会話の機会を増やすようにしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の情報はある一定の期間保管している。また、退去後の請求書送付の際は一文を添えるようにしている。また、メールにて状況をお聞きすることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意志を伝えられない方に関して、表情や体調の変化を汲み取り、検討、実施を行っている。その際は記録に書くようにしているが、プラスの感情に関しての表記は不足気味である。	自分の意志を伝えられない方に関して、表情や体調の変化を汲み取り、検討、実施している。施設の「認知症ケアマニュアル」に沿った対応で、普段から声かけする、ゆっくり話をし表情を読み取る、普段の生活行動から捉える等を心がけ、思いや意向の把握に努めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の基本情報作成時(事前調査時等)に以前の暮らしぶりや入居前現在の様子を聴取、情報作成を行っている。また、入居後も主にご家族ではあるが、入居者様の情報を聞き、記入している。また、情報は全職員観覧できるようにしている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	日々の仕事の中で、職員同士が意見を出し合い管理者および計画作成等、意見をまとめてケアプランを作成、それをもとに職員は計画を実施している。また、会議内の意見も同様の流れで行っている。	業務の中で意見を出し意見をまとめて個別支援計画作成をしている。その計画をもとに日々の支援を実施している	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別にて介護記録を実施している。記録にて情報共有し実践、検討案件の場合は再度見直し、実施を行っている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れを可能としているが、現在希望者がいない。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等、入居者様の新規受け入れ時には連携をとっているが、入居者様が「楽しむ」までは至っていない。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の家族を主に、以前通っていた病院等を考慮し決定している。電話や直接あって、意見等求めており、連携は取れている。	精神科に通院している方は家族のほかに看護師が必ず通院時同行している。かかりつけ医を継続している利用者もいるが、内科や歯科往診もあり、本人・家族の希望に応じた支援をしている。薬剤師の訪問、服薬指導など看護師との連携もあり、適切な医療を受けられる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変等発生した場合、当施設の看護師に報告、相談を行っている。受診が必要な場合は看護師受診のもと、受診している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、当看護師と相談の上、家族に報告、了解を得たうえで入院となっている。病院関係者との関係作りとまではいかないが、必要時電話連絡等行い入院の手続きを行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設において、看取りを可能としているかかかりつけ医に関しては看取りを可能としている。提携医は看取りを不可としている。当施設の規定により使用不可となる場合は、家族に連絡を行い、入院等準備を行って頂けるよう話している。今現在は具体的な事柄を決定しているには至っていない。	施設において、看取りを可能としているが、かかりつけ医師によって対応が異なっている。今まで施設内での見取りは1名だけであった。	入居時に「重度化対応・終末期対応指針」が以前はあったように記憶しているが、もし施設内での看取りを今後していくのであれば入居時に家族、本人の意思確認しておくことが望まれます。
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して、大体の流れは把握していると思われる。実際体験として行う機会はほぼない。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月中旬に洪水に関しての訓練を行う予定。現時点では、全職員が災害時にどのように動くのか、明確にわかっていないのが現状である。火災訓練に関しては6月に実施している。全職員に関しては、報告書を観覧できるようにしている。	日中、夜間想定災害時訓練を行っている。非常時の飲料水、食品、おむつ、ライトなどの準備はしている。避難誘導の際の入居者の避難確認の方法の取り決めはない。	訓練の時は、地域にも声かけするなど、地域との協力体制を築いておくことが望まれます。さらに、災害対策として、非常食の整備がされている食品などの消費期限の確認などほか不足している物などの点検を毎年することが望まれます

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設が推奨している認知症ケアプログラムや寄り添い5か条をもとに声掛け実施しているが、定着には至っていない。	認知症ケアプログラムや寄り添い5か条をもとに声掛け実施している。食事の場面での声掛けや食事介助が行われている。	食事介助において、誤嚥等の事故防止のためにも介助者が利用者の横に座って介助をする、また食直後の下膳についても一呼吸置いて支援することが望まれる。
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	帰設の変わり目など、職員の身だしなみは気を付けている。意志を伝えられない入居者様に関しては、同様の装いになりがちである。また職員により気づきに差が見られる。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全を重視した介助になりがちとなり、「楽しんで」とまでは至っていない。食器を拭くことに関しては、職員と共に行っている。	食事は、副菜を事業者よりチルドで取り寄せ、湯銭して提供している。施設で主食と汁物を作り盛り付けをしている。おやつは、定時に施設から提供している。	食事は、楽しみと意欲の向上に繋がるものであり、新鮮な果物や野菜を取り入れた献立、また、入居者の多くは箸を器用に使っており、常食、軟食などの形態の対応が望まれます。
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況表があり、食事摂取、水分摂取を時間単位にて記載している。また、水分が足りないときはカンファレンスを行い、飲み物を飲んで頂けるよう工夫している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。介助が必要な入居者様には介助入っている。入れ歯の手入れ等も介助や自力にて行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを記録より読み取り、適切な時間に誘導を行っている。また、安易にテープ式のオムツを着用するのではなく、トイレ誘導出来る入居者様は安全を確保の上、トイレ誘導を行うようにしている。	排泄チェック表を活用し、排泄リズムを把握し利用者一人ひとりの状況を把握している。テープ式のオムツを着用するのではなく、独歩や車椅子の入居者は安全を確保してトイレ誘導をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	当施設の看護師とともに、排泄チェック表を日々確認を行い、便秘が続いている入居者様には坐薬等使用し排便を促している。また、排泄を促す食べ物(牛乳やヨーグルトなど)摂取して頂くようにしている。また、当施設の体操があり、10:00、15:00付近の日に2回体操を行い、腸などの刺激を促している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴を目標に介助を行っている。本人の希望にいつでも入るといいう仕組みはまだ出来ていない。	午前中に週2回以上の入浴を目標に介助を行っている。入浴を拒否される利用者にも、丁寧に何度も話をしそれでも拒否をするときは次の日の変更したりして入浴支援をしている	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンを使用し、夜間帯の温度調節を行っている。また、体位交換を実施、さらに体にタオル等をあてがい褥瘡防止に努めている。さらに、本人が安眠できるであろう明るさを本人に聞いたりして調整を行っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が入居者様の薬の状況を把握しているには至っていない。何か特変があった場合などは、薬の情報をもとに対応している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が当施設にてどのように過ごしているのかを、実際に介護に携わっていくうえで、また記録を参考に種々の活動を提供している。意思を伝えずらい、または伝えることのできない入居者様の嗜好を探る試みは少ないのが現状である。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等本人の希望は出ているが、すぐに対応するとの状態には至っていない。また、特定の入居者様となっており、満遍なく行えているとは言えない。	車で外出をして同系列の施設でキッチンカーで食事をして利用者の交流をした。買い物などの希望が出されるが利用者に満遍なく支援することができない	利用者の希望が散歩や買い物などが多く、職員との外出なども1回の人数に制限があると思われる。もし施設のほうで可能であれば、施設にコンビニなどの協力をもらい、施設内で買い物ができる仕組みを考えたかどうか
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持ちたいと話されている入居者様はいるが、紛失等トラブルになる可能性もあるため渡していない。欲しいものがあつた場合は、職員が代わりに購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂くレイアウトを心掛けている。月初めに行いたいところであるが、実行出来ていない。また、安全を配慮し持ち出し等危険であろうものは撤去している。	季節感を感じて頂くレイアウトを心掛けている施設内は清潔で、共有空間は明るい木目の色調で統一され、窓から採光があり、明るく居心地よい場となっている。廊下の壁には、程よく絵画が展示され、利用者の一人ひとりの感覚を大切にしている	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性の良い入居者様を側に誘導するなどして、会話を機会を増やすように心掛けている。昼食後など、居室にて過ごして頂けるよう誘導、移動介助を行っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族など意見を聞き、本人の好みを探り、本人の好きな物を置くようにしているが、特定の入居者様に限られている。	各居室の壁の色や窓の大きさは、利用者の光の刺激に配慮されている。家族の協力で時計や小物類やテレビなどが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室によって、排泄用品がベッド脇の床に大量に置かれており、プライバシーの配慮が望まれます。
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒等発生しないように、転倒リスクがある物品を撤去している。また火の発生をなくすため、IH機器を使用している。		